

(別紙 8)

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	0170502348		
法人名	有限会社 レイロ		
事業所名	グループホーム 涼風		
所在地	札幌市豊平区中の島2条7丁目4番5号 電話： 011-837-8353		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成21年1月28日	評価確定日	平成21年5月27日

【情報提供票より】 (平成21年 1月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年11月1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	18 人 常勤 14人, 非常勤 4人, 常勤換算 14.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1.2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費：24,000円	
敷 金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要 (1月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護 1	2 名	要介護 2	5 名		
要介護 3	5 名	要介護 4	4 名		
要介護 5	2 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 83.2 歳	最低	74 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田代内科呼吸器科クリニック・聖マリア歯科クリニック
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム涼風」は、近くに大きな公園があり、川が流れるなど自然環境に恵まれた静かな住宅地に位置している。代表者は、以前、在宅の相談員をしていた経験から、利用者がゆったりと穏やかに生活する中で24時間継続したケアをしたいとの思いで、ホームヘルパーをしていた管理者である妻と共に当グループホームを開設した。開設した季節、夏の終わりに吹く風と、一般家庭と同じような和風のホームを作りたいと言う思いで、「涼風」をホームの名前とした。職員は、常にゆったりと穏やかな、と言う理念のもと、一人ひとりの利用者によってゆったりと寄り添い、楽しい生活が送れるよう心がけて日々のケアに取り組んでいる。
--

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目：外部4)
	地域との交流や運営推進会議の定例化、ホーム便りの発行など具体的に取組みが行われた。地域密着の文言を入れた理念の作成や、職員の外部研修への参加については取組みの途中である。
①	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目：外部4)
	自己評価は、職員の意見を聞きながら主任が中心となって作成している。前回の外部評価を踏まえて取組みを行ったが、自己評価により、まだ取組みが不十分な項目がある事に気づく良い契機となっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目：外部4, 5, 6)
	前回の外部評価を踏まえ、2ヶ月に1回の頻度で民生委員、地域包括支援センター職員、家族などが参加して運営推進会議が開催されている。会議において入居者の状況や活動報告を行うと共に、事前に家族へのアンケートを実施して質問に回答するなど、参加者からの意見を貰う事により、サービスの向上に活かしている。前回の外部評価や自己評価を運営推進会議で報告する事により、参加者からの意見を貰い地域行事への参加についても考える機会になっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目：外部7, 8)
	家族の来訪時に話しかけたり、家族にアンケートを取るなど積極的に意見を出して貰うように工夫し、出された家族の意見はできる限り会議で話し合ったり、運営推進会議で報告をしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目：外部3)
	町内会に加入しているが、現在は利用者の状況により行事にはあまり参加できていない。地域神社のお祭りの御神輿を見に行ったり、近くのコンサートに出かけている。夏季などの公園散歩で保育園児や親子連れと挨拶を交わしたり、近くがマラソンコースになっているので、選手の応援などを行い地域の人々との触れ合う機会を作っている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの「ゆったりと穏やかな雰囲気の中で安心して又安全に生活を送る事が出来るように支援する」と言う理念を掲げているが地域密着についての文言はまだ盛り込まれていない。	○	運営推進会議の議題として取り上げ、家族からの意見も貰い、代表者、全職員で、ホーム名の「すずかぜ」の文字を入れた地域密着を踏まえた新たな理念の作成を考えているので、その取り組みに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関、居間、事務所、職員休憩室に掲示し常に全職員が意識出来るように工夫している。日々の申し送り時や全体会議で、利用者がゆったりと穏やかに生活できるようにするためのケアについて話す事により、職員も理念を意識して仕事に従事している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しているが、現在は利用者の状況により行事にはあまり参加できていない。地域神社のお祭りの御神輿を見に行ったり、近くのコンサートに出かけている。日々の散歩で保育園児や親子連れと挨拶を交わしたり、近くがマラソンコースになっているので、地域の人と選手の応援をする事もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、一部の職員の意見を聞きながら主任が中心となって作成している。前回の外部評価を踏まえ、地域とのつきあいや運営推進会議の定例化、ホーム便りの発行など具体的に取り組みが行われた項目もあるが、自己評価をする事により、まだ取り組みが不十分な項目がある事に気づく良い契機となったと捉えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の外部評価を踏まえ、2ヶ月に1回の頻度で民生委員、地域包括支援センター職員、家族などが参加して運営推進会議が開催されている。会議において入居者の状況や活動報告を行うと共に、事前に家族へのアンケートを実施して質問に回答するなど、参加者からの意見を貰う事により、サービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	代表者は、市役所と常に連携を取ることで、スプリンクラー設置の件や事業所における終末期の対応についての国の考え方、事業所における事例など積極的に訪問して相談を行っている。事業所内の医療行為については、保健所などに相談に行く事もある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、利用者の普段の様子を手紙で家族に知らせると共に、今月からホーム便りを発行して事業所の様子を報告している。家族の来訪時には、職員が利用者の様子を話したり、来訪の少ない家族には、利用者の状況により随時電話連絡を入れている。	○	領収書、明細書を毎月家族に送付して報告すると共に、職員の退職については、ホーム便りなどを利用して家族に報告するなど、その取り組みを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に話しかけたり、家族にアンケートを取るなど積極的に意見を出して貰うように工夫している。来訪時などに出された家族の意見は会議で話し合っているが、すべての内容については、全職員で共有できていないと感じている。	○	家族から出された意見や要望を記録に残して話し合う事により、すべての内容が全職員で共有できるように期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や職員の関係を考慮してユニット間の異動を行う事もあるが、利用者への影響は殆どないと感じている。職員の退職については以前は利用者に報告していたが、利用者が不穏になった事や、退職しても復職するケースも多いため現在は報告はしていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月毎の会議時に勉強会として時間を取り、認知症の理解や理念について、また業者を講師に呼んでの「おむつのあて方」など日々の介護に関する内容について内部研修を行なっている。外部研修は、職員のレベルに応じて勤務扱いで受講できるようにしているが、去年は殆ど実施されていない。	○	全職員の外部研修受講状況を記録に残し、今後の外部研修計画に生かせるように期待したい。各職員が、外部研修に参加できる体制を作りを考えているので、その実現を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が知り合いの事業所と交流を行う事により、事業所内での悩みや疑問について相談にのって貰う事がある。市のグループホーム協議会の会議に参加し、他の事業所の情報を得たり、他の事業所の職員が見学に来るなどの交流が行われている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族と本人が見学に来たり、本人が来訪できない時は面会に行くなどして利用者の状況を確認し、家族と相談してスムーズに入居できるよう配慮している。入居時は、寄り添って話を聞いたり、家族に協力して貰って電話で話をして貰うなど、利用者が安心できるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備や味見、食器洗いや食器拭き、部屋の掃除、洗濯物たたみなど、それぞれの利用者の状況に合わせて手伝って貰うなどの工夫をしている。職員の普段の声かけにもなかなか反応しない利用者が笑顔を見せてくれた時など、職員は嬉しく思い、元気づけられていると感じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの行動を観察することで、本人が言葉で訴えている事実を確認している。また、本人の思いや意向を会話の中で把握し、難しい場合は、利用者と職員が共有してきた時間の蓄積を通して見極めをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事業所独自の書式を用いて、介護計画を作成するための情報収集や分析を行っている。医療機関からの情報や本人、家族の意向を踏まえて担当職員が中心となり介護計画の原案を作成し、職員会議で検討し介護支援専門員が文章化している。本人に分かり易いように説明し、家族の了解を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	各々の職員は、担当以外の利用者についての気づきを事務所にあるメールボックスに入れて情報を共有している。また、個別記録などを基に月1回の見直しのための職員会議で状況の変化について検討をしている。介護計画は、3ヵ月毎に見直しをしているが、入退院時や精神症状の変化などに応じて見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間対応の協力医療機関と連携し、必要に応じて事業所で点滴を行い、利用者の心身の負担を軽減している。外出や通院などの柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの利用者が協力医療機関に変更しているが、かかりつけ医を変更しない方が良い場合もあるので継続して受診することができるよう支援している。かかりつけ医への受診は、家族対応であるが、難しい場合は事業所に対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	協力医療機関と連携することで、看取りは可能であると考えている。昨年は、退院後本人、家族の意向を尊重し、その都度話し合い看取りを行っている。重度化や終末期に向けた方針は、文書化していない。	○	重度化や終末期に向けた方針の共有をすることができるよう、事業所の方針を文書化することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	子どもに接するような言葉遣いとならないよう配慮をしている。排泄に関する言葉かけは、他の利用者に聞こえないよう耳元で話しかけるようにしている。個人情報は、リビングの鍵付きの棚や事務所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、入浴、就寝などの一日の大まかな日課はあるが、一人ひとりのペースに沿うように努めている。起床が遅い利用者には、個別に朝食を用意したり、夜遅くまでテレビを観て過ごすこともある。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成と食材の配達、2ユニット分を業者に委託している。利用者の希望を反映させるため事前に連絡をし個別献立を取り入れることもある。食器を洗う、拭く、味見をする、もやしの根を取る、盛り付けをするなどを行っている。職員の休憩時間と重なるため1名の職員と一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回を目標に月曜日から土曜日の午後に入浴している。入浴の回数が少ない利用者には、日曜日に入浴できる態勢を整えている。拒否のある場合は、対応する職員や曜日を变えることで入浴を楽しむことができるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	居室の物干しに洗濯物を干す、掃除をする、乾いたタオルを畳む、日めくりをめくる、カーテンを開けるなど各々の役割を持っている。また、ゲームやカラオケ、塗り絵、折り紙などの楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季は、毎日精進川の河畔を散歩し鴨に餌を与えたり、保育園の子ども達と言葉を交わしている。2、3人の利用者に1名の職員が同行し20分から30分ほど散歩を楽しんでいる。正面玄関の横にある駐車場で外気浴をすることもある。冬季の外出は難しい状況にある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼夜を通して正面玄関、各ユニットの出入り口、事務所、浴室に施錠し職員が鍵を持ち歩き開閉している。不審者情報への防犯対策と考えている。また、浴室や事務所には、洗剤や薬剤を保管しているので安全対策として施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難マニュアル、役割分担、連絡網などを作成し、非常口や2階からの避難はしごを設置している。蓄熱式暖房を採り入れオール電化となっている。消防署の指導の下での避難訓練や自主訓練、運営推進会議での地域の人々への協力依頼は行っていない。	○	昼夜を問わず利用者が避難できるよう、災害対策を実施することを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は個別に記録し、月1回の血液検査で栄養バランスや水分量などの過不足を把握している。水分量は食事以外に一日およそ1000mlを目標とし、緑茶や番茶、コーヒー、スポーツドリンクなどで補っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、木のぬくもりが伝わるよう和風を強調している。1月は職員の手作りの凧を飾るなど、1ヵ月毎に装飾を変えて季節感を採り入れている。クリスマスには、2ユニットで飾りつけを競い合った。リビングには大型のテレビとソファを置き居心地よく過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁紙、照明器具は和風であり、窓はカーテンを使用せず、障子となっている。ベット、椅子、仏壇などが持ち込まれ、家族の写真や手作りの貼り絵などが飾ってある。プライバシーに配慮し、暖簾を掛けている居室もある。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。